i.i.STORY

今治にハマった皆さんに、今治の魅力や活動についてインタビュー

i'm into Imabari!

Person

FC 今治／株式会社今治．夢スポーツ
代表取締役社長　**矢野 将文さん**

J3で5年目のシーズンを迎えるFC今治。ホームスタジアムの「今治里山スタジアム」は、オープンから1年が過ぎました。サッカースタジアムを核に、地域と人をつなぐ次世代の文化・交流拠点として、里山をもっと心豊かな空間にしようと先頭に立って走り続ける、株式会社今治．夢スポーツの矢野将文社長にお話を伺いました。

365日にぎわう里山をつくりたい

「スタジアムからの景色は本当に素晴らしい。ここは世界一のスタジアムだと岡田会長（代表取締役会長である岡田武史氏）も胸を張っています。」という矢野社長の言葉通り、眼下には今治の街並みが広がり、島々や山と海が織り成す瀬戸内の景色を一望できます。空は広く、圧倒的な開放感です。

「今治里山スタジアム」のコンセプトは、名称通り『里山』。里山のように、人々の心の拠り所となるような場所にしていきたいという思いが込められているそうです。今、スタジアムでは、サッカーファンのみならず、小さな子ども連れのファミリーなど、若者から年配の方まであらゆる年齢層の方が楽しんでいます。

©FC. IMABARI

「この場所を365日繁栄させていくことが私たちの使命。たとえ試合がない日でも、人々が集まりにぎわう場所にしたい。」と語る矢野社長。スタジアム内には、カフェやドッグラン、芝生のエリアなどがあり、平日でも地域住民が楽しむ場として提供されており、周辺の自然や景観と共存しながら人々が集まるコミュニティの拠点となっています。

また、敷地内に社会福祉法人の通所施設を設けるなど、社会貢献の一環としても注目されています。障がいの有無に関わらず、互いの違いを認め合い同じ時を過ごす、そんなあたたかな場所があるなんて本当に素敵ですね。

成長するスタジアム

今治里山スタジアムを訪れてまず驚くのが、ピッチとの距離でしょう。ピッチからスタンドまでがとにかく近く、メインスタンド1列目とピッチを遮るのはわずかな段差のみ。試合中の選手の息づかいや、監督、コーチたちの指示、選手どうしが掛け合う迫力ある声まで聞こえてきます。「スタンドとピッチに柵を設けていません。まさに“開かれたスタジアム”。入ろうと思えば誰でもピッチには入れてしまいます。でも皆さんのモラルが高くて誰も入らない。開放して自由に出入りできるようにしても大丈夫ということは、2017年から5年間使わせていただいた“ありがとうサービス．夢スタジアム”で実証済みなんです。」と矢野社長。このマナーの良さやモラルの高さは今治市民としても誇らしく思います。

一方で、課題もあるといいます。スタジアムは、自然豊かな里山というコンセプトのもと、スタジアムの周囲をアスファルトで舗装せず、あえて土のままにしているため、雨が降るとぬかるみや水たまりができ、足元が悪くなることがあります。ありのままの自然を楽しんでいただければよいのですが、お客様から苦言を呈されることもあるのだとか。矢野社長は、「難しい問題」としつつも、「お客様が求める利便性や快適性と、私たちの理念とのバランスをうまくとりながら、より多くの皆様に楽しんでいただける里山に育てていきたい。」と話してくれました。

天気のいい日には
遠くに来島海峡大橋も
見える
(写真提供:FC今治)
(撮影:川澄・小林研二
写真事務所)

矢野社長は「成長するスタジアム」と表現されていますが、その言葉どおり、ここはクラブや地域と共に育っていくスタジアムです。座席も現在の5,300席からJ1規格の15,000席まで増設できる設計構造、植栽された樹木が育つことで景観も変わり、クラブの成長や地域のニーズなどに合わせて進化していきます。次に訪れる時にはまた違った景色が楽しめると思うとワクワクしますね。

まずは動くこと！

矢野社長が大切にしている理念は、『動く』。「失敗してもいい。まずはやってみる。そこから学べることがたくさんあります。昨年はベースを作る1年でした。里山2年目は小さくてもいいのでまずは動くことを大事にしていきたい。」(矢野社長)　今年動きはじめた取り組みのひとつに『今治里山スタジアムの夜空を楽しむ焚火イベント』があります。大好評だったようで、今後もさまざまな事業を通じて皆さんと交流していく計画があるそうです。

矢野社長は、今治の魅力を『皆さんが主人公のまち』と表現されています。お住まいの地域や産業に誇りをもち、『自ら動く人』が多いと感じているそうです。また、美しい豊かな自然や、市内どこへ行っても知り合いに遭う、顔が見える距離の近さも安心感につながっているといいます。

㈱今治. 夢スポーツの企業理念は、『次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会創りに貢献する』。その理念を単なるお題目にせず、意思決定のたびに必ず立ち返り、妥協せず徹底して貫いてきたからこそ、地域の人々から愛されるFC今治と今治里山スタジアムがあるのではないでしょうか。フットボールにおいて、FC今治は将来的に世界と対等に戦うクラブになることを目指しています。矢野社長のにこやかな笑顔の奥には、リーダーとしての強い意志と覚悟がありました。これからのFC今治と里山の成長を、多くの人が心待ちにしています。

あなたの i'm into をおしえてください

広報スタッフ本多さんからは「社長の場合、I' m into草引きじゃないですか！？(笑)」の衝撃発言が飛び出すほど、スタジアムの草引きやゴミ拾い、清掃など、里山の環境整備を率先しておこなっているという矢野社長。「自分の家も建てたことがないのに40億円のスタジアムを建てることになるとはね」と笑いつつ、大きな夢を抱いて先頭を走り続けています。
「I' m into 里山づくり」。矢野社長は、里山づくりに夢中です！

FC今治
公式サイト

今治里山スタジアム